

平成30年度 兵庫県病院事業の経営状況について

1 経営状況 (13 病院)

- (1) 平成30年度は、加古川医療センター等における一部診療科の医師数減少による減収や神戸陽子線センターの本格稼働による費用増等があったものの、地域医療連携の推進等による収益の確保及び費用の抑制に取り組むとともに、旧こども病院の土地・建物売却に伴う売却益等により、純損益は21百万円の黒字となった（経常損益は3億82百万円の赤字）。
- (2) 経常収益は、新たな施設基準の取得や手術件数の増加等により入院収益が増加したほか、化学療法の外來への移行による患者数の増加等により外來収益が増加するなど前年度から26億円増加し1,328億円となった。また、特別利益を含む収益全体では、前年度から36億円増加し、1,339億円となった。
- (3) 経常費用は、診療機能の高度化に伴う医師等の増員や給与改定による給与費の増、医業収益の増に連動した材料費の増、神戸陽子線センターの本格稼働等による経費の増などにより、前年度から31億円増加し1,332億円となった。また、特別損失を含む費用全体では、前年度から35億円増加し、1,339億円となった。

決算状況(13病院)

(単位:百万円)

区 分		平成29年度	平成30年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
経常収益	入院収益	74,074	74,572	498	100.7
	外來収益	30,096	31,259	1,163	103.9
	その他医業収益	2,500	2,584	84	103.4
	医業収益 計	106,670	108,415	1,745	101.6
	一般会計繰入金	15,676	15,972	296	101.9
	その他収益	7,842	8,437	595	107.6
	合 計 ①	130,187	132,824	2,637	102.0
経常費用	給 与 費	63,920	64,353	433	100.7
	材 料 費	34,915	35,928	1,013	102.9
	経 費	17,978	19,015	1,037	105.8
	その他医業費用	11,024	11,625	601	105.5
	医業費用 計	127,838	130,921	3,083	102.4
	その他費用	2,245	2,285	40	101.8
	合 計 ②	130,083	133,207	3,124	102.4
経常損益 ③(①-②)		104	△ 382	△ 486	—
特別利益 ④		188	1,103	915	586.7
特別損失 ⑤		280	699	419	249.6
当期純損益⑥(③+④-⑤)		12	21	9	—

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

(単位:百万円)

区分	尼崎	西宮	加古川	淡路	こころ	柏原	こども	がん	姫路	粒子線		10病院計	指定管理			計	
										たつの	神戸陽子		災害	リハ中	リハ西		
H29 決算	経常損益①	234	325	156	41	△ 153	△ 351	△ 368	278	72	97	△ 227	104	(△143)	(65)	(73)	104 (△5)
	純 損 益②	201	286	161	24	△ 153	△ 352	△ 378	275	82	93	△ 227	12	(△143)	(65)	(73)	12 (△5)
H30 決算	経常損益③	306	224	△ 132	63	△ 81	△ 209	△ 109	173	93	△ 64	△ 646	△ 382	(△73)	(11)	(10)	△382 (△52)
	純 損 益④	25	215	△ 174	63	△ 86	△ 383	827	153	91	△ 62	△ 646	21	(△73)	(11)	(10)	21 (△52)

※ ( ) 書きは指定管理病院の決算を記載

業務量(13病院)

区 分		単 位	平成29年度	平成30年度	前年度比較
入 院	病床数(年度末)	床	3,880	3,886	6
	病床利用率	%	84.5	82.7	△ 1.8
	延患者数	人	1,196,767	1,173,046	△ 23,721
	1日当たり患者数	人/日	3,279	3,214	△ 65
	平均在院日数	日	13.6	13.5	△ 0.1
	入院単価	円	66,677	68,478	1,801
外 来	延患者数	人	1,555,818	1,574,448	18,630
	1日当たり患者数	人/日	6,376	6,453	77
	外来単価	円	20,257	20,737	480

## 2 資本的収支

### (1) 決算状況

(単位:百万円)

区 分		平成29年度	平成30年度	前年増減	主な内訳
収 入	企業債	13,000	13,565	565	建設改良費の増に伴う増
	負担金	4,995	12,168	7,173	一般会計からの繰入金調整の精算に伴う増
	その他収入	2,116	4,842	2,726	丹波医療センター整備事業にかかる諸収入の増 +2,031(481→2,512)
	合 計	20,111	30,575	10,464	
支 出	建設改良費	15,664	17,511	1,847	神戸陽子線センター整備事業△7,626(7,626→0) 丹波医療センター整備事業+9,580(3,224→12,804) はりま姫路総合医療センター(仮称)整備事業+590(125→715)
	企業債償還金	9,902	9,832	△ 70	実績減
	その他支出	260	7,082	6,822	繰入金調整の精算に伴う一般会計への長期借入金の償還
	合 計	25,826	34,425	8,599	
差 引		△ 5,715	△ 3,850	1,865	内部留保資金で補てん

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

### (2) 主な整備事業

ア 丹波医療センター整備事業

総事業費 212 億円(うち 30 年度 128 億円)

イ はりま姫路総合医療センター(仮称)整備事業

総事業費 408 億円(うち 30 年度 7 億円)

### 3 累積欠損金、内部留保資金等

平成30年度末の累積欠損金は、30年度の当期純損益（税抜き）が25百万円の黒字となったことから、252億円となった。また、内部留保資金の残高は、平成30年度末で40億円となった。

(単位:百万円)

区分	平成29年度	平成30年度
当期純損益	3	25
累積欠損金	△ 25,256	△ 25,231
内部留保資金残高	2,153	4,041

※ 金額は損益計算書ベース(税抜き)で作成

(参考：平成30年度決算の特色等)

#### 1 病院事業全体の純損益が2年連続で黒字

経常損益は赤字となったものの、純損益は2年連続で黒字を確保

(単位：百万円)

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経常損益	388	483	△608	△4,248	△2,087	104	△382
純損益	793	△1,479	△1,427	△9,139	△5,599	12	21

#### 2 一般会計からの繰入金減額調整の解消

行革期間中に実施された一般会計繰入金減額調整（総額10,903百万円）について、平成30年度から5年間で、一般会計と病院事業会計との貸借関係の整理とあわせて精算を実施

- (1)平成30年度精算額 7,581百万円  
(うち、一般会計からの長期借入金との相殺6,781百万円)
- (2)令和元年度精算額 800百万円
- (3)令和2～4年度精算額 2,522百万円

#### 3 令和元年度の取組

丹波医療センターの開院に伴う患者調整等により、一時的な収支悪化が見込まれるが、各病院が、引き続き収益の確保、費用の抑制に努め、病院事業全体で経常黒字を目指す。